

共同研究協定

日本	財団法人名古屋みなと振興財団 (名古屋港水族館)		2009.7.3	—
マレーシア	オランウータン島財団	Orang Utan Foundation	2010.11.1	—
マレーシア	ブラウバンディング財団	Pulau Banding Foundation	2010.11.1	—
日本	西海国立公園九十九島水族館 「海きらら」		2012.6.16	—
日本	日本モンキーセンター		2014.10.15	—
日本	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構生理学研究所		2014.1.22	5年間 (自動継続)
日本	新潟大学脳研究所		2015.8.1	5年間 (自動継続)
日本	中部大学創発学術院		2016.9.2	5年間 (自動継続)
日本	公益財団法人鹿児島市水族館公社 (かごしま水族館)		2016.11.1	5年間 (自動継続)

3.5 学位取得者と論文題目

京都大学博士（理学）

高田裕生（課程）：Morphological changes of large V pyramidal neurons in cortical motor-related areas after spinal cord injury in macaque monkeys（サル脊髄損傷後の運動関連領野における5層巨大錐体細胞の形態学的変化）

李婉儀 Lee Wan Yi（課程）：Exploring factors governing the gut microbiome of Japanese macaques（ニホンザルにおける腸内細菌叢の変動要因）

仲井理沙子（課程）：霊長類 iPS 細胞を用いた初期神経発生動態の解析

京都大学修士（理学）

Sanjana Pratap Kadam：喫煙者と非喫煙者の社会的および情動的認知バイアス

Satyajit Biswas：SIV 感染アカゲザルにおける抗レトロウイルス療法のプロトコルの確立

高安環：上丘における前頭眼野からの入力の情報処理様式

戸塚めぐみ：情動反応における腹内側前頭皮質の役割の解明

沼部令奈：TAS2R 遺伝子多型によるコーヒーの苦味成分に対する感受性の違い

濱寄裕介：コモンマーモセットの音声コミュニケーション解析における音源定位技術の応用と評価

林咲良：哺乳類ゲノムで最近内在化または転移した内在性レトロウイルスの同定

平田和葉：ニホンザルにおける歯のマイクロウェアを用いた食性推定法の検討

南俊行：嵐山餌付けニホンザル集団の養育行動に関する研究：ベビースキーマと祖母仮説に着目して

Kovba Anastasiia：霊長類モデルによるヒト免疫不全ウイルス（HIV）潜伏感染に関する研究：リンパ組織 HIV 感染リザーバーへの抗レトロウイルス薬の効果とその意義

Abdullah Langgeng：温泉とホロビオン：ニホンザルの温泉入浴行動と宿主関連生物相の関係

3.6 外国人研究員

M Sigaud（フランス 所属・無）

(2018.9.27～2021.4.26)

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：生息環境の悪化が絶滅の危機に瀕した霊長類におよぼす影響評価